

新潟大学 人を対象とする研究等倫理審査委員会 オプトアウト書式

①研究課題名	新潟県における高齢者脆弱性骨折発生状況の調査
②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	
<p>【対象】 2025年1月1日から12月31日の間に新潟県内で発生した大腿骨近位部骨折、椎体骨折、上腕骨近位部骨折、橈骨遠位端骨折例（約3500例）</p> <p>【研究期間】 新潟大学医学部倫理審査委員会承認後から2028年3月31日まで</p>	
③概要	
<p>新潟大学整形外科では1985年よりおよそ5年に1回、高齢者骨折調査を全県で行い、新潟県内は高齢者の増加に伴い大腿骨近位部骨折数は増加しているものの、骨粗鬆症治療の普及に伴い骨折率増加していないことを報告してきました。本研究の目的は高齢者に発生しやすい骨折の実態を把握し、これまでの調査を比較することにより今後の骨折発生を予防するための対策を立てたり、高齢者が健康で長生きするための施策を考えることです。</p>	
④申請番号	2023-0337
⑤研究の目的・意義	<p>我が国では高齢者人口の増加により、大腿骨近位部骨折をはじめとした、高齢者脆弱性骨折患者が増加していると報告されています。新潟大学整形外科では1985年よりおよそ5年に1回、高齢者骨折調査を全県で行ってきました。本研究の目的は高齢者に発生しやすい骨折の実態を把握し、これまでの調査を比較することにより今後の骨折発生を予防するための対策を立てたり、高齢者が健康で長生きするための施策を考えることです。</p>
⑥研究期間	新潟大学医学部倫理審査委員会承認後から2028年3月31日まで
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	<p>X 線画像は骨折の診断をするため、通常の診療に使用するものであり、本研究のために、追加する検査はなく、対象者に不利益が生じることはないと考えられます。データは研究を担当する研究者および分担研究者以外の者に漏洩しないように、作業方法、作業場所、データ保管方法等を厳重に管理致します。個人情報に関しては特定の個人を識別することができない情報へ匿名化を行います。研究成果の公表に際しては、個人が特定されることのないように配慮致します。</p>
⑧利用または提供する情報の項目	<p>年齢（満60歳以上）、性別、受傷日、（手術を行った場合の）手術日、骨折の種類、左右、骨折の原因（転倒、転落など）、骨折の場所（屋内、屋外）、骨粗鬆症治療の有無、既存骨折、骨折リエゾンサービスの介入の有無、反対側大腿骨近位部発生の有無</p>

	(* 調査期間内に反対側の大腿骨近位部骨折を生じたかどうか)。
㊟利用の範囲	新潟大学大学院医歯学総合研究科 健康寿命延伸・運動器疾患医学講座および整形外科学分野
㊟試料・情報の管理について責任を有する者	新潟大学大学院医歯学総合研究科 健康寿命延伸・運動器疾患医学講座 今井 教雄
㊟お問い合わせ先	新潟大学大学院医歯学総合研究科 健康寿命延伸・運動器疾患医学講座 今井 教雄 025-227-2272 lmainorio2001@med.niigata-u.ac.jp